

(別紙様式)

(A3判横)

平成28年度 学校自己評価システムシート (県立八潮高等学校)

目指す学校像	「清纯 真摯」の校訓のもと、社会の中で力強く生きる力を育てる学校
--------	----------------------------------

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 基礎学力の向上を図り、より高い進路希望実現を目指す。 2 部活動への積極的な参加を促し、生徒の行動力・実践力を高める。 3 保護者・地域との連携を強化し、生徒募集の安定化を図る。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	8名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 2 1 日 現 在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	○生徒は教員の不断の取組みにより、落ち着いた学校生活をおくるようになってきたが、基礎学力を定着・向上させる必要がある。	・生徒の基礎学力を定着・向上させる。	①学力向上委員会を中心に来年度補充足する特伸クラスについての指導目標・指導計画・保護・生徒への説明等を具体的に立案・策定する。 ②基礎学力の向上のために、漢字検定・英語検定・情報処理検定などの資格取得に力を入れる。 ③わかる授業の構築と教員の指導力向上のため公開授業や研究授業を行う。	①特伸クラス発足の計画等を策定しそこで生じる問題の解決策を提示・実施できたか。 ②漢字検定・英語検定・情報処理検定の合格者を増加させられたか。 ③公開授業・研究授業を行い、その成果を職員全体で共有できたか。	学力向上については ①特伸クラスについて育てる生徒像・募集定員・授業方法・考査・評価方法等を協議・合意し、次年度の準備を整えた。また、学び直しの取組を行い1年生の6割近くが学力到達ゾーンが上昇し、1・2年の家庭学習時間ゼロの生徒が昨年比1割以上減した。 ②検定の取得については、漢字検定は4級5名、3級68名、準2級4名合格である。 英語検定は、3級合格3名準2級1名合格である。 情報処理検定は、4級21人、3級145人である。英語検定以外は昨年度より増加した。 ③教員指導力向上については研究授業等は予定どおり行い、その成果は教科単位で共有している。	A ・今年度から学力向上委員会が発足し、来年度からは特伸クラスが発足する。特伸クラスの学力と、他の普通科クラス・体育コースの学力の向上の具体的な成果を出していく必要がある。
	○就職進学とも進路希望実現は、ほぼ100%を達成できているが、より難関な進路望の実現には課題がある。その実現のため、来年度、発足する特伸クラスについて、組織的に準備を行い、指導計画を策定することも必要である。	・進路希望実現率100%を継続し、さらに難関な進路の実現者(就職は事務系・公務員、進学は中堅以上の大学・短大等)を増加させる。	④進路指導部を中心に、難関進路をめざす進路指導計画を策定する。また、外部模試等を活用し、結果を生徒に還元する。	④難関進路実現をめざす進路指導計画を策定し、希望実現者を増加できたか。(昨年度、事務系就職2名、中堅大学4名、公務員2名、高等看護学校1名)	進路実現については ④就職では100%実現のは継続され、難関進路実現者数は事務系就職9名、公務員2名、高等看護学校1名、中堅大学4名である。	B ・来年度から発足する特伸クラスについては上記の学力向上の成果の伸張と難関進路の実現の具体的な成果が必要がある。
2	○これまで活動の少なかった部の活動が活性化しつつあるが、さらに全ての部の活動の活性化を図ることが課題である。	・部活動のさらなる活性化を図る。	①100%の生徒を、明確に部に所属させ、活動させる。 ②中高連携委員会・教務部を中心に部活動大会結果等の広報活動拡大を図る。	①部活動の実質活動人数が100%に近づいたか。 ②部活動大会結果等の広報が定期的実施できたか。	部活動の活性化については ①部活動加入率100%、実質活動人数の割合は93.1%である。 ②大会結果等のHP更新を定期的に行っている。今年度活動顕著な部活動は陸上競技部(全国)、ボート部(関東)男子ハンドボール部(県ベスト8)女子ハンドボール部(県ベスト16)に加え、サッカー・野球(県ベスト32)、軽音楽(県大会決勝出場)等である。	B ・今年度は従来から活動顕著な部活動に加え、野球やサッカー・軽音楽などの部活動が成果を上げてきている。これらの部活動がより顕著な成果を上げ、他の部活動に波及していくよう改善する必要がある。
	○生徒は落ち着きを見せるようになったが、自信がもてない生徒や学校生活に適応できない生徒も存在する。	・生徒異動件数を減らす。	③生徒との面談を積極的に行い、課題のある生徒は教育相談委員会やスクールカウンセラーを活用するなど教育相談活動の充実を図る。また、ゴミゼロ運動・AED講習会等ボランティア活動や体験活動の積極的参加を生徒に促す。	③生徒異動件数を減らすことができたか。また、生徒の体験活動参加人数が延べ600人以上を実現できたか。	生徒異動件数については ③今年度22件であり、昨年度19件より3件増である。また徒の体験活動参加の人数はゴミゼロ運動・AED講習・近隣幼稚園ボランティア参加者累計で400人前後である。	B ・生徒は落ち着いた生活をおくり、問題行動を起こす生徒は減少傾向にあるが、不明確な理由で欠席が増加し、転退学に至る生徒が増加傾向である。これらの生徒をより丁寧に指導し、生徒異動件数を減らしていく必要がある。
3	○28年度入試では普通コース・体育コースとも1.1倍を超える志願倍率を確保したが、進学フェア等の来場者数では苦しい状況が続いている。今後、他校や過去の志願状況に影響されないような、より安定化した生徒募集の実現が課題である。	・地域の信頼を得た生徒募集を実現させる。	①中高連携委員会を中心に学校案内の内容を改善する。特に特伸クラスについて中学生・保護者に明確に説明できる内容を設定する。 ②中高連携委員会を中心に全教職員の生徒募集における役割分担を明確化し、中学校訪問を年2回以上実施する。特に八潮市内の中学校は管理職自ら訪問する。また、塾訪問も実施する。	①学校説明会の実施時期に応じて説明方法・内容が改善でき、学校説明会の延べ参加者数が600人を超えたか。 ②八潮市内からの入学者の割合が3分の1を超えたか。	生徒募集の安定化については ①学校説明会の内容を実施時期に応じて改善し、説明会の参加人数は生徒・保護者合わせて700名前後に達している。 ②役割分担の明確化については全教職員による役割分担を行い中学校訪問・塾訪問を年2回実施した。八潮市内からの入学者の割合はわずかに不足しているがほぼ3分の1を達成している。	A ・何年も苦しい状況が続いている。中学校との連携事業(教員相互派遣・出前授業)等はできており、学校説明会参加者も昨年より増加しているが、志願倍率の上昇には至っていない。広報活動の充実も必要であるが、学力向上や進路実現・部活動の充実等、学校の根幹に係る活動の改善を推進していく必要がある。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成29年 1月31日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>特伸クラスを設けて上位層のレベルアップすることも必要であるが、すべての生徒が学習意欲を高め、学力を向上できるように指導に力を入れてもらいたい。 教員は、学習意欲の低下による態度の乱れを、必ずその場で指導してほしい。 生徒を伸ばすには、課題に取り組みせ、目標をやりきるように指導することが重要である。生徒の取り組みを毎日指導すること等、手間がかかるが、一人一人丁寧に指導することで学力が向上する。</p> <p>部活動加入率100%は素晴らしい。人間形成には部活動での先輩後輩の人間関係が社会に出てからも役に立つので高い部活動加入率を維持して欲しい。 部活動に意欲を持って入学した生徒でも、部活動でのつまずきが原因で退学等にいたる場合がある。こうした生徒にも学力を身につけさせて学校を継続させることが重要である。中学と高校の連携をより密にすることによって、退学の防止も可能である。 また、体験活動は生徒の心身の育成に重要であるので、今まで行っていた体験活動をなくすことなく引き続き継続をお願いしたい。</p> <p>厳しいことが八潮高校の良いところである。校則・体育が厳しいという認識が中学生・保護者に定着している。当たり前を守るべき事を当たり前で指導している事を中学生にもっとアピールしてほしい。入学を希望する中学生の多くは厳しい高校に入学して頑張るといふ生徒が多いので、八潮高校の伝統を守って欲しい。また、中学生の保護者は卒業後の進路に期待している。生徒には目標を持たせ、頑張れば報われることを指導してほしい。今後も「八潮高校は厳しいが、面倒見が良い。」というイメージを大切にしてほしい。</p>	